

この資料は、改訂障害者相談支援従事者研修テキスト（主任研修編）とNSK制作講義動画の資料を参考に「北陸三県合同研修会版」に改変したものです。

令和8年　北陸3県主任相談支援専門員研修

（R8.11.16　富山県庁）

多職種協働（チームアプローチ）の考え方と展開方法
～演習の部～

○　一社）福井県相談支援専門員協会
　　主任相談支援専門員　　上松　さゆり（奥越地区基幹相談支援センター）

○　NPO法人　わくわく小矢部　　わくわく小矢部相談支援事業所
　　主任相談支援専門員　　今多　裕子

本演習のねらい	□多職種協働（チームアプローチ）による支援を展開するための知識と技術を深める □多職種協働（チームアプローチ）による効果的な支援の展開方法について修得する
学習のポイント	□多職種協働における課題 □円滑で効果的な連携を図るために必要な知識と技術 □実践事例を通した学び（効果的な展開方法の修得）

講義と演習の流れ

内容	ポイント	合計160分
1. 流れの説明 振り返りシートの記入	(11:15～)	3分
2. 導入・講義① 制度・事業からみえる 多職種協働	・ねらいと学習のポイントの説明 ・主任としての多職種協働の3つの柱 ・いろいろな制度や事業から見える多職種協働	12分
休憩（11:30～12:30）		60分
3. 演習 主任相談支援専門員として多職種との連携におけるアプローチ方法について考える	1. 講義の要点整理と演習の内容、事例の説明 2. 介護領域との連携について （困っていること・理想とする形・主任としての工夫） 3. 医療・教育・雇用・司法等の領域との連携について （困っていること・理想とする形・主任としての工夫）	9分 35分 40分
休憩(5分)		5分
4. 講義② 多職種連携のポイント 多職種協働するために	・医療・介護・教育・雇用・司法・行政との連携のポイント ・3つの柱を中心に主任相談支援専門員が多職種協働するためのコツについて整理する	52分
5. 振り返りシートの記入	(～14:55)	4分
休憩(10分)		

休憩　　11:30～12:30

◆ 12:30から演習を行います

休憩中に グループ内で ファシリテーターと記録の担当を決めてください。

この単元では2つのセッションがあります。
セッションごとでも、単元とおしでも構いません。

次の単元でも、明日の演習でもグループワークがあります、
ファシリテーションを意識して、役割を決めましょう。

講義内容を意識して
演習に取り組むために

講義のおさらい（要点の整理）

テキストP167～170

■主任相談支援専門員としての多職種協働の3つの柱

（1）個別支援における連携(フォローアップ、モデリング、SV、OJTなど)

（2）地域づくりにおける連携（コミュニティワークの実践及びモデリング）

（3）多職種連携の土壌づくり（他職種・他事業者同士のベクトル合わせと協働できる土壌づくり）

■多職種協働をするのは、医療・保健・福祉・介護・教育・雇用・司法・行政や商業・工業・農業などの産業及び地域住民というように、地域にある人・物・場所あらゆるもの。

■地域における縦横連携

縦の連携：移行期に支援者同士が一緒に考える場を持ち、仕組みを作る

横の連携：同時期に関わる人たちの顔の見える連携

制度の狭間は、インフォーマルも視野に

演習５

講義内容を意識して
演習に取り組みましょう。

多職種協働（チームアプローチ）による効果的な
支援の展開方法について、２つの演習をします。

１．演習の内容と事例の説明

２．セッション１【35分】
　　介護領域との連携について考えよう

３．セッション２【40分】
　　医療・教育・雇用・司法等の領域の中から
　　ひとつ選んで連携について考えよう

資料①演習事例（2つの事例）	
事例1「世帯支援」	
支援対象	母：80歳、認知症 息子：50歳、統合失調症 母と一人息子の二人暮らし
状況	• 母の認知症が悪化し、家が片づかなくなり、ごみ屋敷の状態になってきた。 • 母のケアマネジメントを担当している介護支援専門員が、息子にハウスクリーニングを提案した。 • いったん了承されたが、後日、息子から断りの連絡が入った。 • ヘルパーを導入しようとしても息子が拒否している。 • 介護支援専門員から主任相談支援専門員に「息子さんへの関わり方がわからない」と相談があった。
事例2「介護保険への移行支援」	
支援対象	65歳、男性、知的障害者、要介護1、障害支援区分4
状況	• 男性は、長く就労継続支援B型事業所を利用しており、担当の相談支援専門員を信頼している。 • 55歳のとき、父親が亡くなり、近所の叔母の支援で一人暮らしを続けている。 • 60歳になり、就労継続支援B型事業所の利用を終了し、居宅介護と地域定着支援の利用を始めた。 • この際、相談支援専門員は、介護保険に移行しても継続して利用できる事業所を選定している。 • 65歳になり、介護保険の利用を開始しているが、半年間は、地域定着支援を引き続き利用した。

セッション１　介護領域との連携について［35分間］

講義内容を意識して
演習に取り組みましょう。

事例１のような世帯支援、事例2のような介護保険への移行支援で介護支援専門員と連携する場面を想定して、連携について考えましょう。
（※事例検討ではありません）

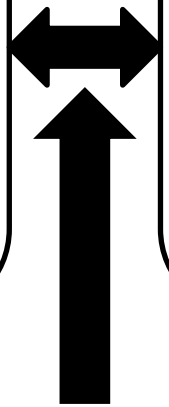
１．グループワーク【１０分】
ワークシートを活用し、連携で困っている点・理想とする形をあげてみよう
(自分が困っていることだけでなく、他者から相談されて解決できないことも取り上げる)

２．グループワーク【25分】
「困っていることをどのようにすれば乗り越えて、理想とする形にできるのか？」
「主任相談支援専門員として工夫すべきこと」を考えてみよう

ワークシート（セッション1：介護領域との連携について）

①連携で困っていること

②連携の理想の形



③「困っている点をどのようにすれば乗り越えて、理想とする形にできるのか？」
「主任相談支援専門員として工夫すべきこと」を考えてみよう

時間配分の目安：①②10分、③25分

演習で気をつけてほしいこと

◆多職種協働がメインテーマではありますが、実践力を高めるために、全員がファシリテーション技術を意識して演習をしてください。

◆グランドルールも守りましょう。

セッション2　（※お手元に事前課題5をご準備ください）
医療、保健、教育、雇用、司法等の領域との連携について［40分間］

講義内容を意識して
演習に取り組みましょう。

1. 医療、保健、教育、雇用、司法等からグループごとに1つの領域を選ぼう
【3分】

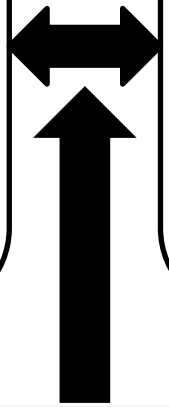
2. グループワーク【12分】
ワークシートを活用し、連携で困っている点・理想とする形をあげてみよう
(自分が困っていることだけでなく、他者から相談されて解決できないことも取り上げる)

3. グループワーク【25分】
「困っていることをどのようにすれば乗り越えて、理想とする形にできるのか？」
「主任相談支援専門員として工夫すべきこと」を考えてみよう

ワークシート（セッション2：介護以外の領域との連携について）

①連携で困っていること

②連携の理想の形



③「困っている点をどのようにすれば乗り越えて、理想とする形にできるのか？」
「主任相談支援専門員として工夫すべきこと」を考えてみよう

時間配分の目安：①②12分、③25分